

Title	タイの日系企業志望の若手エンジニアの特性
Author(s)	近藤, 正幸
Citation	年次学術大会講演要旨集, 32: 740-744
Issue Date	2017-10-28
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/15048
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

タイの日系企業志望の若手エンジニアの特性

○近藤 正幸（東京電機大学）

1. はじめに - 日本から多いタイへの海外直接投資

グローバル化が進展している中で、日本企業もその活動を海外に展開している。日本の製造業について 2015 年の生産拠点および研究開発拠点についてみると、タイは生産拠点については中国に次いで多い(表 1)、研究開発拠点についても中国、米国に次いで多い(表 2)。海外の日本人商工会議所の会員数(2016 年 4 月)ではバンコクが 1,715 会員で世界で最も多くなっていて半数近くは製造業である。

タイにおける日本企業の状況をみるために、タイへの海外直接投資額(2013 年)を見てみると、日本からが 60.7%と圧倒的に多い(表 3)。2 位以下は香港 8.1%、オランダ 6.9%、マレーシア 4.5%、シンガポール 4.2%、米国 2.0%と続く。

このようにタイは日本企業にとって魅力的な海外拠点の設置先であり、タイにおいて日系企業は外資系企業として大きな割合を占める。しかし、タイは就職する者の売り手市場である。国際通貨基金統計によるとタイの失業率はアジアで最低で 2011 年以来 1%未満であり、2015 年の失業率は 0.80%である。

そこで、本稿では、次章以降で、タイの工科系大学の学生に関して、就職を希望する企業を日系企業、タイ企業、日系以外の外資系企業に分けて、どのようなプロファイルの者が日系企業を志望するのかを明らかにし、就職動機や実際の就職先、実際の就職先での満足度を分析している。その結果、プロファイル的には男子より女子の方が、通常の学生よりも優秀な学生の方が日系企業を志望すること、専攻別では情報技術学部の学生には日系企業はあまり人気がないこと、就職動機については、日系企業志望者は「仕事との相性」を最重視し、タイ企業志望者や日系以外の外資系企業の志望者と比較すると「給与」と「規模・安定」を重視していること、満足度が高いこと、などを明らかにしている。最後に今回判明したことのまとめと今後の研究予定を述べる。

表 1：日本企業の海外生産拠点の立地先

ランキング	2015 年	2014 年	2013 年
1 位	中国 36.4%	中国 37.8%	中国 40.3%
2 位	タイ 18.2%	タイ 18.8%	タイ 16.9%
3 位	米国 11.1%	米国 12.0%	米国 11.3%
4 位	ベトナム 10.0%	ベトナム 11.0%	ベトナム 9.9%
5 位	インドネシア 9.4%	インドネシア 9.7%	インドネシア 9.8%

注). 数値は海外に拠点を有する企業のうち生産拠点を立地している企業の割合。

出所：日本貿易振興機構（2016）、2015 年度日本企業の海外展開に関するアンケート調査 2016 年 3 月、等から筆者作成。

表 2：日本企業の海外研究開発拠点の立地先

ランキング	2015 年	2014 年	2013 年
1 位	中国 6.3%	中国 6.8%	中国 5.9%
2 位	米国 5.7%	米国 5.0%	米国 3.9%
3 位	西欧 3.1%	タイ、西欧 2.7%	タイ 2.5%
4 位	タイ 1.8%	-	西欧 2.2%
5 位	シンガポール 1.4%	韓国 1.0%	韓国 1.1%

注). 数値は回答した製造業企業のうち当該国に研究開発拠点を立地している企業の割合。

出所：日本貿易振興機構（2016）、2015 年度日本企業の海外展開に関するアンケート調査 2016 年 3 月、等から筆者作成。

表 3：タイへの直接投資(2013 年)

金額順位	国・地域	金額(百万バーツ)	金額シェア (%)
1	日本	348,430	63.5
2	シンガポール	19,418	3.5
3	オランダ	17,971	3.3
4	米国	17,890	3.3
5	香港	12,864	2.3
6	オーストラリア	12,452	2.3
7	台湾	11,711	2.1
8	中国	7,901	1.4
9	マレーシア	7,739	1.4
10	スイス	6,152	1.1
10	インド	6,100	1.1

出所：日本貿易振興機構のHP。2016年5月2日（2014年10月7日更新）
を基に筆者作成。

2. 調査研究方法

2.1 分析の視点

本調査研究は、大学の学部卒業1年目の若者を対象としている。そのため、若手エンジニアの特性は、学生時代の特性である次の特性を用いている。

- 学部別、
- 性別、
- 成績優秀・通常別

なお、優秀学生とは、入学時に奨学金試験に合格した奨学生、又は、卒業時に成績優秀者として表彰された学生である。

また、就職志望先、実際の就職先については、日系企業と地元タイ企業や日系以外の外資系企業の比較を行うため、以下の3つに分類している。

- 日系企業
- 地元タイ企業
- 日系以外の外資系企業、

具体的な分析項目は、

- 志望企業の国籍
- 就職先企業の国籍
- 就職動機
- 満足度

としている。

2.2 調査対象—泰日工業大学

具体的な調査票調査について述べる前に、対象とした日本と深い関係を有する泰日工業大学について述べる。

泰日工業大学は、日タイ友好とタイ産業界の人材育成を目的として1973年に元日本留学生たちによって設立された泰日経済技術振興協会が母体となって2007年に設立された私立の工科大学である。日本との関係から、日系企業や日本政府の支援を色々と受けている。カリキュラム的には、英語に加えて日本語を必修にしており、日本のものづくりや日本的経営にも力を入れている。学部は工学部(5学科)、情報技術学部(3学科)、経営学部(6学科、うち1学科は社会人向け)からなっている。大学院の修士課程は5コースからなっている。2014年入学生数は学部1,406人、修士101人である。卒業生は約半数が日系企業に、10%以上が日系企業と取引が多い企業に就職している(「泰日工業大学のパンフレット」2015年1月)。

2.3 調査票調査

具体的な調査票調査は、2014年3月に学業を終了した卒業生に対して卒業式が挙行された2014年11月までの間にインターネットにより実施した。調査票の回収数は426であったが、有効回答数は356であった。

3. 調査研究結果

3.1 志望先企業

志望先企業を見ると、全体では日系企業が60%を超える（表4）。調査対象が日本とゆかりが深い大学の卒業生であるということが関係していると考えられる。残りは地元タイ企業を志望する者が約3割、日系以外の外資系企業を志望する者が約1割である。

次に、調査対象の学生時代のプロフィール別に志望先企業をみてみる。

男女別に見た場合、明らかに、女子の方が日系企業を志望する割合が高い。女子の68.5%が、男子の52.8%が日系企業を志望している。

学部別にみると、経営学部（75.0%）、工学部（65.5%）で日系企業を志望する割合が高い。情報技術学部の場合は、地元のタイ企業を志望する割合が42.9%で最も高い。日系企業を志望する割合は40.0%で地元のタイ企業を志望する割合より若干低い。

成績別にみると、優秀な学生の方が日系企業を志望する割合が高い。優秀な学生の65.1%が日系企業を志望しているのに対して通常の学生は59.7%が日系企業を志望している。

表4：志望先企業（単位：%）

企業の類別	全体	男女別		学部別			成績別	
		男子	女子	工学部	情報技術学部	経営学部	優秀 (17.7%)	通常
日系	60.7	52.8	68.5	65.5	40.0	75.0	65.1	59.7
タイ	29.2	36.0	22.5	26.4	42.9	19.7	27.0	29.7
日系以外の 外資系	10.1	11.2	9.0	8.2	17.1	5.3	7.9	10.6
計	100	100	100	100	100	100	100	100

3.2 実際の就職先と満足度

実際にどのような企業に就職したのかを志望先企業の類型別に見てみる。

全体では、地元タイ企業が多いため、実際の就職先も過半（51.7%）が地元タイ企業である。日系企業に就職した者は4割弱（39.0%）である（表5）。日系以外の外資系企業への就職は1割弱（9.3%）である。

表5：志望先企業と実際の就職先企業（単位：%）

実際の就職先	全体	志望先		
		日系 (60.7%)	タイ (29.2%)	日系以外の外資系 (10.1%)
日系	39.0	59.3	6.7	11.1
タイ	51.7	34.3	84.6	61.1
日系以外の外資系	9.3	6.5	8.7	27.8
計	100	100	100	100

当初の志望先別にみると、日系企業志望者の約6割は実際に日系企業に就職している。約3分の1はタイ企業に就職している。日系以外の外資系企業への就職は全体と比較しても少なく6.5%である。

タイ企業志望者は大部分（84.6%）が実際にタイ企業に就職している。外資系では日系よりも日系以外の方がやや多い。

日系以外の外資系企業の志望者でも6割以上がタイ企業に就職している。希望通りに日系以外の外資系企業に就職したのは3割弱（27.8%）である。1割強が日系企業に就職している。

実際に就職した先別の満足度を見ると、日系企業に就職した者の満足度が下記の通り最も高い。

- 日系企業に就職した者の満足度 93.8%
- 日系以外の外資系企業に就職した者の満足度 85.7%
- タイ企業に就職した者の満足度 79.7%

3.3 志望先企業と就職動機

就職動機を全体でみると、「仕事との相性」が35.4%でトップである。これに、「将来性」28.1%、「規模・安定」14.6%、「給与」11.0%、「海外に行けること」6.5%と続く。「その他」は4.5%である（表6）。

次に当初の志望先別にみる。

まず、日系企業志望者についてみると、傾向は「全体」と同じである。「仕事との相性」が35.6%でトップで、これに「将来性」24.1%、「規模・安定」17.1%、「給与」13.0%、「海外に行けること」8.3%と続く。「その他」は1.9%である。「全体」より高い割合を示す就職動機は、「仕事との相性」、「規模・安定」、「給与」である。

タイ企業志望者は「将来性」を重視する。「将来性」38.5%、「仕事との相性」34.6%、「規模・安定」12.5%がトップ3である。

日系以外の外資系企業の志望者には「規模・安定」は重視されない。「仕事との相性」36.1%、「将来性」22.2%、「海外に行けること」13.7%がトップ3である。

表6：志望先企業先毎の就職動機（単位：%）

	全体	日系	タイ	日系以外の外資系
仕事との相性	35.4	35.6	34.6	36.1
将来性	28.1	24.1	38.5	22.2
規模・安定	14.6	17.1	12.5	5.6
給与	11.0	13.0	8.7	5.6
海外に行けること	6.5	8.3	0.0	13.7
その他	4.5	1.9	5.8	16.7
計	100	100	100	100

次に、日系企業志望者について、実際の就職先別に就職動機をしてみる。

実際に日系企業に就職した学生は、他のタイプの企業に就職した者に比べ、就職動機として「仕事との相性」、「規模・安定」、「給与」が強い（表7）。実際にタイ企業に就職した学生は「将来性」を重視する。実際に日系以外の外資系企業に就職した者は、「将来性」と「海外に行けること」を重視する。

表7：日系企業志望者の実際の就職先別の就職動機（単位：%）

	日系企業志望者 全体	実際の就職先		
		日系	タイ	日系以外の外資系
仕事との相性	35.6	37.5	33.8	28.6
将来性	24.1	16.4	35.1	35.7
規模・安定	17.1	21.1	10.8	14.3
給与	13.0	14.8	10.8	7.1
海外に行けること	8.3	8.6	6.8	14.3
その他	1.9	1.6	2.7	0.0
計	100	100	100	100

日系企業志望者については、就職動機として「給与」も強いものとなっているため、実際の就職先別に給与レベルをしてみる。

実際に日系企業に就職した者の給与は、実際にタイ企業に就職した者よりは高く、実際に日系以外の

外資系に就職した者よりはやや低い。実際に日系企業に就職した者の平均は 3.37、実際にタイ企業に就職した者の平均は 2.88（タイ企業志望で実際にタイ企業に就職したものの平均は 2.79）、実際に日系以外の外資系タイ企業に就職した者の平均は 3.43(日系以外の外資系志望で実際に日系以外の外資系に就職した者の平均は 3.50)である。ここで、数値は月額で 1=1 万 B 以下, 2=1 万~1.5 万 B. 3=1.5 万~2 万 B. 4=2 万~2.5 万 B. 5=2.5 万 B 以上を示す。1B は 2016 年 5 月 6 日時点で約 3 円である。

4. おわりに

本研究では、日系企業が生産拠点、研究開発拠点を多く立地するタイにおける日本と縁が深い工科系大学の卒業 1 年目の若者の就職について、志望先と実際の就職先を日系、地元タイ系、日系以外の外資系に分けて就職動機などについて分析を行い、以下の点を明らかにした。

- 日系企業への就職希望は多い。性別では女子生に人気があり、成績別では優秀な学生に人気があり、学部別では。工学部、経営学部に人気があり、情報技術学部ではそれ程でもない。
- 志望しても実際に日系企業に就職している者は志望者の 6 割弱に過ぎない。
- 日系企業就職者の満足度は高い。
- 日系企業志望者は「仕事との相性」を最重視する。日系以外の外資系企業の志望者も「仕事との相性」を最重視する。タイ企業志望者は「将来性」を最重視する。日系志望でも日系以外に就職する社は「将来性」を重視する傾向がある。
- 日系企業志望者はタイ企業志望者や日系以外の外資系企業の志望者と比較すると「給与」と「規模・安定」を重視する。

今後は、より詳細な分析を実施する予定であるとともに、タイの他の大学での調査の可能性を追求していきたい。

謝辞

本研究が可能となったのは、共同研究者でデータ固めをして頂いた泰日工業大学 水谷光一講師、調査票に回答して頂いた泰日工業大学の 2014 年卒業の皆さん、調査に協力して頂いた泰日工業大学のスタッフの皆さんのご協力により可能となったものであり心より感謝します。